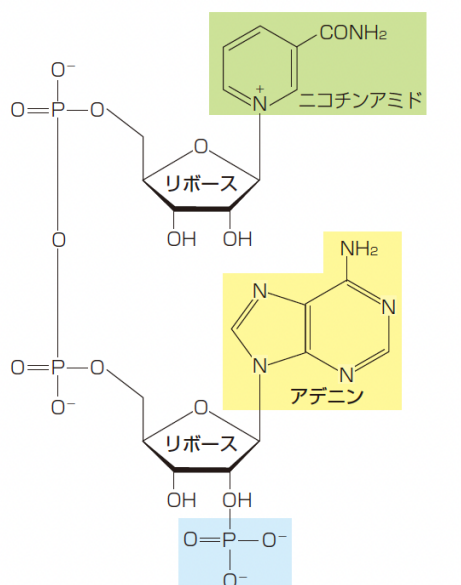
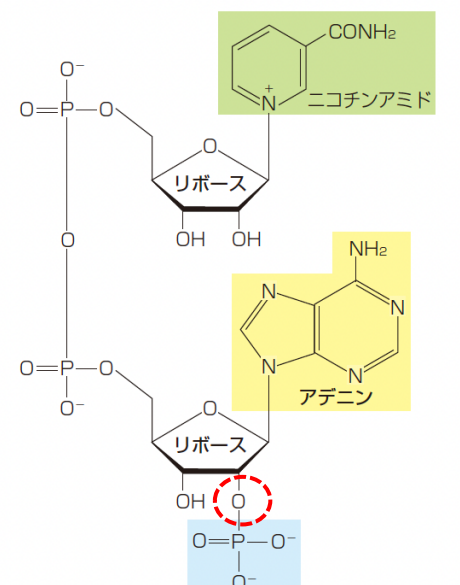
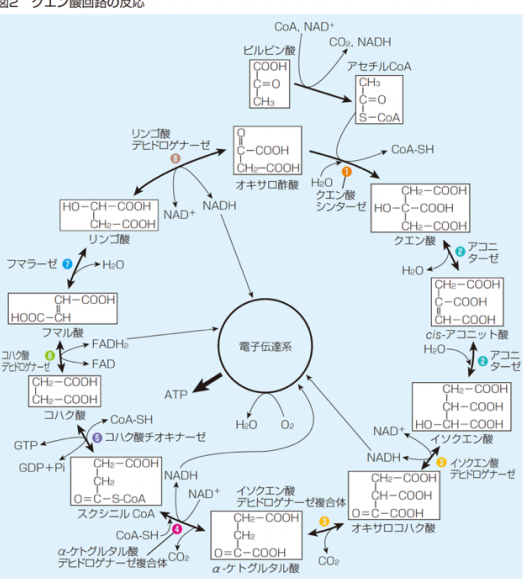
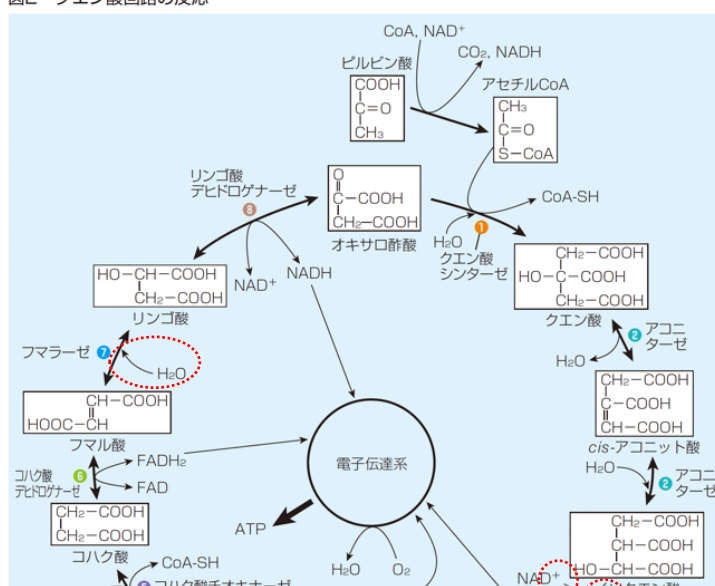


改訂2版『集中講義 生化学』正誤表

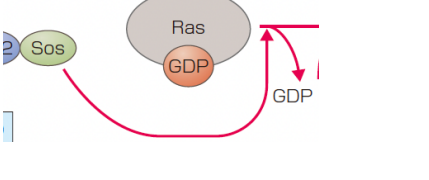
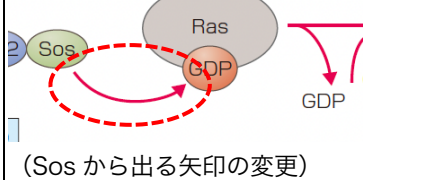
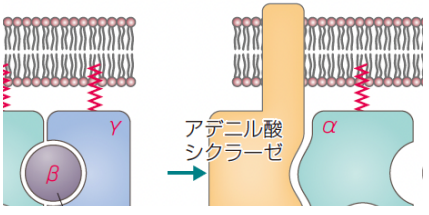
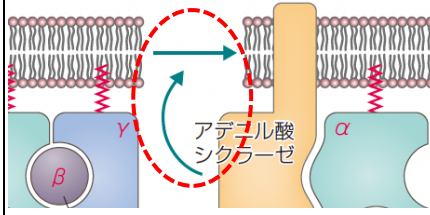
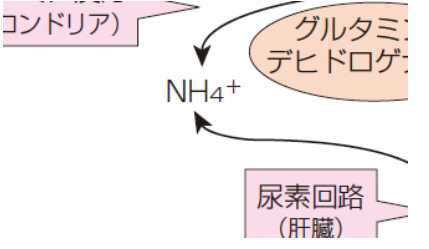
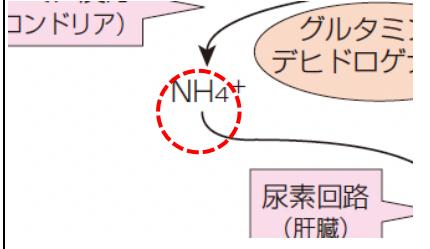
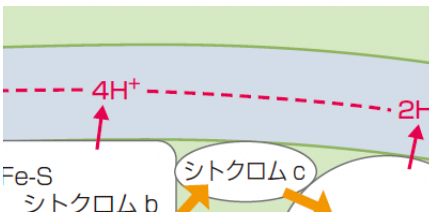
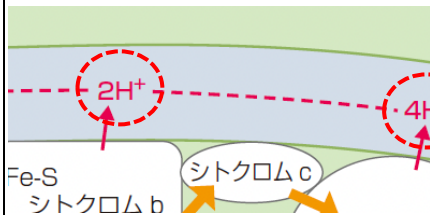
メジカルビュー社編集部

改訂2版『集中講義 生化学』に下記の誤りがありました。ここに深くお詫びし、訂正申し上げます。

第1刷 (2017年4月1日) ~ 第5刷 (2025年3月10日)

頁	該当箇所	誤	正
10	図3	<p>b. ニコチンアミダデニンジヌクレオチドリソ酸 (NADP⁺)</p>  <p>NAD⁺にリン酸基を追加。Hを省略した (簡易な表記)。</p>	<p>b. ニコチンアミダデニンジヌクレオチドリソ酸 (NADP⁺)</p>  <p>NAD⁺にリン酸基を追加。Hを省略した (簡易な表記)。 (OH を O に修正)</p>
218	図2	<p>図2 クエン酸回路の反応</p> 	<p>図2 クエン酸回路の反応</p>  <p>(5箇所の手印の向きを修正)</p>

第1刷 (2017年4月1日) ~ 第4刷 (2022年2月1日)

頁	該当箇所	誤	正
23	図2, 左下	β -D-2'-デオキシリボース	2'-デオキシ- β -D-リボース
77	図2, タイトル	図2 増殖因子受容体のシグナル伝達	図2 増殖因子受容体のシグナル伝達 (MAP キナーゼカスケードを介する経路)
77	図2		 (Sos から出る矢印の変更)
78	図3		 (矢印の追加と向きの変更)
142	図1		 (NH ₄ ⁺ に向かう矢頭の削除)
150	図3(2箇所)	テトラヒドロプテリン, Fe ²⁺	テトラヒドロ ピ オプテリン, Fe ²⁺
161	本文, 下から2行目	難治性疾患克服研究事業の対象になっているが、まだ難病指定を受けていない。	2015年に指定難病(254)となった。
186	本文9行目	…結合したもので、チアミノピロリン酸(活性型はチアミンピリン酸)(略語はTPPまたはTDP)である。	…結合したもので、 活性型 はチアミノピロリン酸(チアミンピリン酸)(略語はTPPまたはTDP)である。
195	本文13行目	・テトラヒドロピオプテリンの合成やジヒドロピオプテリンレダクターゼの活性が低下すると…	・テトラヒドロピオプテリンを合成する酵素やジヒドロピオプテリンを還元するジヒドロピテリジン還元酵素の活性が低下すると…
200	QUESTION 正解	d	b
223	図1		 (4H ⁺ →2H ⁺ , 2H ⁺ →4H ⁺ に変更)

223	図 2		<p>(4H⁺→2H⁺, 2H⁺→4H⁺に変更)</p>
224	本文 2 行目	…膜間腔に (2 個の) H ⁺ を汲み出す。	…膜間腔に (4 個の) H ⁺ を汲み出す。
225	本文 11 行目	…アスパラギン酸や <u>α-ケトグルタル酸</u> に変えて輸送され、 …	…アスパラギン酸や <u>リンゴ酸</u> に変えて輸送され、 …
225	本文 14 行目	それは p.220 で…	それは p.221 で…
286	図 1		<p>(セリン→G3P, PS→PG, LPS→LPGに変更)</p>
287	本文 15 行目	…ホスファチジルセリン (PS) ができる。	…ホスファチジルセリン (PS) ができる (塩基交換反応)。
287	本文 18 行目	CDP-DAG はセリンあるいはイノシトールと反応して、それぞれ <u>PS</u> とホスファチジルイノシトール (PI) を生成する。	CDP-DAG は <u>グリセロール-3-リン酸 (G3P)</u> あるいはイノシトールと反応して、それぞれ <u>ホスファチジルグリセロール (PG)</u> とホスファチジルイノシトール (PI) を生成する。
289	図 3, 中央部		<p>(イソプレンの 2 位にメチル基の直線を加える)</p>
346	図 5, ビタミン K ₁	<p>ビタミンK₁ (フィロキノ)</p>	<p>ビタミンK₁ (フィロキノ)</p> <p>(ナフトキノ骨格の 2 位にメチル基の直線を加える)</p>
391	上部	4. スフィンゴ <u>エ</u> ミリン	4. スフィンゴ <u>ミ</u> エリン
391	中央	5. スフィン糖脂質	5. スフィン <u>ゴ</u> 糖脂質

改訂第2版『集中講義 生化学』正誤表

改訂第2版『集中講義 生化学』(2021年2月10日 第2版第3刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。また、刊行後に新たに分類された酵素について、ここに変更・追記いたします。

2023年10月19日
(メジカルビュー社編集部)

頁	該当箇所	誤	正
186	左の欄外	1911年に日本の農学者である鈴木梅太郎が抗脚気因子であるオリザニンとして発見するが、1912年フックがビタミン B ₁ として発表し、ノーベル賞を受賞した。	1911年に日本の農学者である鈴木梅太郎が抗脚気因子であるオリザニンとして発表するが、1912年にフックがビタミンとして発表し、 ビタミンという名称が生まれた。1929年にホプキンスとエイクマンがビタミンの発見でノーベル賞を受賞した。

<追記>

頁	該当箇所	旧	新
168	模範解答 1行目	……反応の種類により、EC1群からEC6群までの6種類に分類され、	……反応の種類により、EC1群からEC7群までの7種類に分類され、
168	模範解答 最終行に追加		・2018年に国際生化学分子生物学連合によってトランスロカーゼ(translocase)[日本語では輸送酵素]と命名された EC7群が追加された 。EC7群には生体膜を超えてイオンや分子の局在を移動させる酵素が分類されている。これまでEC1群やEC3群に分類されていた酵素がEC7群に移されている。
169	本文1行目	■酵素の反応形式 ・6群に分類された酵素の反応形式を表1に示す。	■酵素の反応形式 ・7群に分類された酵素のうち、EC6群までの酵素の反応形式を表1に示す。
169	本文の最終行に追加		・EC7群の酵素:これまでEC1群に分類されていた電子伝達系の複合体、例えば、シトクロム c オキシダーゼ(旧 EC1.9.3.1)はミトコンドリア内膜を超えてプロトンを輸送するので、EC7.1.1.9に変更された。また、EC3群だったATPaseはATPの加水分解反応が主要な機能ではなく、ATPを使って分子を輸送させることが重要な機能であるため、EC7群に分類されることになった(例: Na ⁺ /K ⁺ -ATPase(旧 EC3.6.3.9)はEC7.2.2.13に変更)。

改訂2版『集中講義 生化学』正誤表

改訂2版『集中講義 生化学』(2017年4月1日第2版第1刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

2019年1月30日
(メジカルビュー社編集部)

頁	該当箇所	誤	正
50	図2 一番上の図		 <p>赤いRNA分子の「テロメアDNA」が「テロメラーゼRNA」となる。</p>
66	本文最終行	…セリン, プロリン , アルギニンは6通りの	…セリン, ロイシン , アルギニンは6通りの
69	図2 Step1 右下	A部位に入った アミノアミル tRNA	A部位に入った アミノアシル tRNA
196	本文下欄外	p.199 QUESTION 正解	p.203 QUESTION 正解 (p.204へ移動)、p.200 にある正解が入る。
197	表1	鉄(Fe) (Feイオン)の列にある ドーパミンβヒドロキシラーゼ を銅(Cu)の列へ移動	
200	本文下欄外	p.195 QUESTION 正解	現在ある正解はp.196 へ、p.204 にある正解が入る
204	本文下欄外	p.203 QUESTION 正解	p.199 QUESTION 正解 (p.200へ移動)、p.196にある正解が入る。
212	模範解答2行目	…ピルビン酸は乳酸となり2分子の乳酸, 2分子のATPとなる。	…ピルビン酸は乳酸にまで代謝され結果的に グルコースは2分子の乳酸と2分子のATP になる。
226	図1 ここがPOINT	マトリックス側に汲みあげられたプロトン(H ⁺)はATPシンターゼによって 内腔側 に戻る。そのときにATPが生じる。	膜間腔側 に汲みあげられたプロトン(H ⁺)はATPシンターゼによって マトリックス側 に戻る。そのときにATPが生じる。
233	図5 ここがPOINT 上から3行目	維持に働く筋肉では	維持に働く。筋肉では
236	下から14行目	…これらは共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)により、	…これらの 共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)は
237	図5 ここがPOINT 下から2行目	逆の 脱リン酸化 はグルカゴンに	逆の リン酸化 はグルカゴンに(脱をトル)
265	模範解答3行目	高カロリー食を食べ続けると、…	過剰に糖分を摂取すると、…
268	8行目	コレステロールは胆汁酸, ステロイドホルモン, ビタミンD に変換される。	コレステロールは胆汁酸, ステロイドホルモンに変換される。 (ビタミンDをトル)
269	QUESTION (2)	b MG-CoA リアーゼ	b HMG-CoA リアーゼ
288	左の欄外 本文1 行目	ファネシルニリン酸は…	ファルネシル ニリン酸は…
311	下から8行目	…皮膚表面の 角質細胞質 の成分で、…	…皮膚表面の 角質細胞間質 の成分で、…
378	左の欄外「代表的 な調節」 ①解糖系 4行目	AMPで阻害され, クエン酸で 活性化 される。	AMPで 活性化 され, クエン酸で 阻害 される。